

令和4年度第2回学校評議員会兼学校運営協議会準備委員会報告

1 日 時：令和5年2月16日（木）15：30～16：30

2 場 所：本校会議室

3 出席者：学校評議員5名、魅力化協働パートナー8名、本校職員9名（校長、副校長、事務長、各課主任、総務担当） 計22名

4 次 第：（1）開会 （2）学校長挨拶 （3）学校概況説明 （4）学校運営協議会の設置について
（5）質疑応答・意見交換 （6）閉会

5 内 容：

【校長挨拶】

本日はご参集いただき感謝申し上げます。ぜひ忌憚のないご意見をお願いしたい。現在本校では、新型コロナウイルス感染症は散発的に発生しているため、職員生徒共々気をつけて参りたい。続いて、生徒募集について申し上げます。先月の推薦入試は志願者は無く、一般入試においては23名であった。これは高校存続の指標を上回っており、皆様からのご支援ご協力の賜物である。感謝申し上げます。一人でも多くの中学生に入学いただけるよう、本校の魅力を磨き上げ各方面に情報発信して参りたい。ご出席の皆様の益々のご指導ご鞭撻をお願いしたい。

【学校概況説明・学校運営協議会の設置について】

副校長より口頭説明

【質疑応答】

A 氏：学校運営協議会発足の経緯を教えてください。

副校長：学校経営に対し、地域の意見をさらに反映させるために発足されたといえる。

B 氏：地域の意見は以前よりも岩手県に届きやすくなるのか。

副校長：以前よりも届きやすくなる可能性がある。

A 氏：コミュニティースクールの効果が上がっている事例はあるのか。

副校長：大槌学園の事例が挙げられる。

C 氏：入学生確保のため、受け入れ態勢について検討している他校の事例もある。

A 氏：今後は意見交換が必要になる。魅力化パートナーと生徒や職員との意見交流ができないものか。

副校長：本日の会議より意見交流がしやすいように参加職員を増やした。生徒と意見を交流することも可能ではある。次の会議までに検討していく。

【意見交換】

・非常に期待しているが年2回の協議会開催では不足だと感じる。協議会の前段階として下部組織等を設け議論する場が必要である。また、数値目標や着地点を設けた上で独自性のある取り組みを考えていただきたい。

・大野高校の魅力を上げるためには、近隣中学校のニーズを探ることが必要だと考える。

・資料には数値目標等の記載がなく抽象的である。ゴールが設定されていない。会議を実施するのであれば、有意義なものにする必要がある。

・会議においては、新しい取り組みを実施するためにはどのようにしたらよいのかを中心に探っていただきたい。

・学校運営協議会は幅広いテーマをもつ会議であるため、高校側の提案に間違いはない。現在の大野中学校在籍生徒から考えると、今後の大野高校入学生は減少していくため早急に対応策を検討することが必須である。

・地域に密着している学校であると思うが、もう少し魅力がある学校になっていただきたい。地元民として存続を望んでいる。高校生が小中学校に出向く等の機会をつくることはいかがだろうか。

・学校評価アンケートにおいて大野高校に入学してよかったという数値は高いことから、在籍している生徒や保護者から意見を集めることで、魅力を発見できると考える。

・下部組織やワーキングチームは重要である。中学校にも意見を求めるとよい。大野の工芸等を通じて交流を増やし魅力につなげていただきたい。

・ワーキングチームで2か月に一度集まるなどして、お互いに意識を高めていけたらよいと考える。

・保護者として大野高校のよさがあまりわからない。息子が大野高校を受験する際にも同様であった。